

農業の高齢化と就農者獲得の取り組み

熊本高等専門学校 電子情報システム工学専攻1年 國安 柁希

調査概要

食料自給率が低い日本において、現在、高齢化及び担い手不足に伴う耕作放棄地の拡大が深刻な問題となっている。

この問題の解決のために、現状の具体的な問題点、原因などを深く理解し、県を筆頭とする様々な団体・組織が実施する新規就農者獲得と定着支援の取り組みを包括的に分析し、自分たちにもできることがないのか考える必要がある。

調査方法

インターネットを使用し、第一次産業に関するレポートや取り組みの調査を行った。

調査の背景・目的

日本の農業の現場では高齢化が深刻な問題となっており、熊本県も例外ではない。農業従事者の減少と高齢化の進行によって、耕作放棄地の増加や農業の担い手不足が顕在化している。

そこで、農業の現状と問題点を整理し、行われている取り組みについて紹介・考察することで関心を高めることを目的とする。

熊本県における農業の現状

熊本県の基幹的農業従事者は2020年調査で51826人と5年前から約2割減少し、そのうち65歳以上が61.3%を占めている。高齢者の比率は5年間で4.5ポイント上昇しており、担い手の高齢化はこれからも急速に進行していくと考えられる。

全国平均をみると、2020年時点で65歳以上の割合は69.8%で熊本県は全国的にはやや低いものの、全国、熊本県ともに若手層は減少傾向である。